

(1) 障害者スポーツ大会開催の状況*

山口 雅 功**

1) 障害者スポーツとは

障害者も自由に生活・活動できる社会をつくっていくべきという、ノーマライゼーションの考えが注目されている。いわゆる障害者の社会参加の考えで、この考えはスポーツの面においても促進されている。そこで、障害者のスポーツには、どのようなものがあり、そのスポーツを障害者はどのように利用しているのか考察した。

日本障害者スポーツ協会の障害者スポーツQ & A「障害者のスポーツとは？」(日本障害者スポーツ協会ホームページ)によると、「障害者のスポーツとは、障害者のために特別に考案されたスポーツだけを指すのではなく、原則として健常者が行っているスポーツを、(1)障害があるために、できないことがある。(2)障害があるために、スポーツによる事故の心配がある。(3)障害を増悪化させるおそれがある。(4)競技規則が複雑なため理解しにくい。などの理由でルールを一部変更して行っているものを指します。たとえば、車いすテニスの場合、サイドステップやスタートダッシュが、健常者のようにできないので、2バウンド後の返球が認められています。しかし、コートの広さやネットの高さなどは、一般のテニスルールに基づいて行われています。あるいは、立ってバレーボールをすることが困難な選手が行うシットイングバレーボールでは、コート内の移動やジャンプが困難ですから、コートの広さやネットの高さを変更しています。また、視力に障害がある選手のスポーツでは、選手の目の役割を果たすガイドと共にプレーすることが認められているものが数多くあります。」とされている。この考えはアダプテッド・スポーツとして、活動が展開されている(増田和茂:2005)。

このように、障害者の障害の程度に応じて各種の工夫が施され、障害者も健常者と同様に、ノーマライゼーションの考えにたつてスポーツを行うようになってきた(柴田徳造:1992)。日本では、1964年に開かれたパラリンピック東京大会の翌年から全国身体障害者スポーツ大会が開催され、これに遅れて1992年からは全国的障害者スポーツ大会が開催された。なかでも1998年に開催された長野パラリンピック以降、障害者のスポーツが注目されてきている。これらのパラリンピック・ムーブメントと、養護学校の義務教育化(1979年)による特殊教育における体育指導の充実が、今日の障害者スポーツ振興の礎を築いたといえる(矢部京之助・草野

* The Matter of Sports Games for the Challenged

** Masanori YAMAGUCHI, 立正大学社会福祉学部社会福祉学科

キーワード: 障害者のスポーツ, パラリンピック, 全国障害者スポーツ大会

勝彦・中田英雄編著：2004)。

そのためか、2001年にはこれまで開催されていた全国身体障害者スポーツ大会と全国知的障害者スポーツ大会とが統合されて第1回全国障害者スポーツ大会として宮城県にて開催され、その後、高知県大会、静岡県大会を経て、2004年11月には埼玉県熊谷市を主会場として第4回全国障害者スポーツ大会が開催された。

2) 障害者スポーツの必要性

(1) リハビリテーションとしての障害者スポーツ

イギリスで始まった障害者のスポーツは、第2次世界大戦で障害を負った軍人たちのリハビリテーションの補助的方法として、ヨーロッパ諸国や日本をはじめとして多くの国々に紹介されていった(高橋明：2004)。その後、障害の程度や内容の異なる様々な障害者のためのスポーツが、機器の開発やルールの改正とともに発展してきた。近年では、健常者が行うスポーツの多くの種類に障害者がスポーツを行っており、障害者用のオリエンテーリングも開発され、特殊なスポーツとしてのマリンスポーツやグライダーなどにも試みられている。このような背景のもと、障害者のスポーツは医学的なリハビリテーションスポーツを越え、趣味としてのスポーツとして拡がり、一部の障害者にとっては、競技スポーツの領域に入っている。なかでも、パラリンピックは、世界最高の技術を競い合うレベルの大会となっている。しかしながら、この根底にはリハビリテーションにおける基本理念としての、能力の向上、社会参加、自己実現が存在している。

スポーツは身体運動を基本としている。身体の使えるところは全てを使って楽しむものが、スポーツといって良いだろう。ところが、障害者の場合、障害の程度や状態によって身体を動かすことが少ない、または出来ない場合がある(馬場哲雄編：1992)。そこで、意識的に身体を動かすことの必要性が生じてくる。障害者に対するスポーツの身体的意義は、治療や機能回復訓練(リハビリテーション)としての意義、健康維持としての意義、身体的表現やリラクゼーションとしての意義である。の比重が高い場合は訓練としてのリハビリテーションとなり、の比重が高い場合は趣味活動としてのスポーツやレジャーとなる。の場合は訓練と趣味活動との中間となり、遊びや体操・運動となる(綿祐二編著：1997)。

(2) スポーツの効果

誰でもスポーツは楽しい、といった気持ちを持っている。ところが障害者の場合、体力的、精神的に自信が持てなかったり、恥ずかしかったりして、自ら進んで参加できない場合が多い。自分で出来ることは自分でやって、出来たときの喜びは大きいもので、これによってスポーツによる自立が始まるであろう。そのために、社会・地域に、障害者が参加できる体制が要求される。

障害者スポーツ大会開催の状況（山口）

スポーツには、「行うスポーツ」と「見るスポーツ」という参加形態がある。前者には個人で行うものと、団体で行うものがあり、個人・団体を問わず多くの仲間とスポーツを行うことになる。地域社会の構成員としての参加形態となり、地域コミュニティの場となるであろう。後者の場合は、スポーツを見る楽しさが理解されれば、観戦することになり、そのためには屋外に出ることとなり、その人の生活に身体活動を確立することとなる。これもまたスポーツの効果となる。

障害者、とくに身体障害者は、意識的に身体を使わなければ、健康を維持するのに必要な運動量を確保することが難しく、体力をつけなければ生活上での困難をもたらすことがある。身体運動を基本として楽しむスポーツは、リハビリテーション訓練のみならず、社会参加と自己実現として機能し、人間回復や社会人としての復活、社会における障害者の認識、障害者の自立と共生の認識というように、障害者にとって重要な役割をもたらす（日本リハビリテーション医学会スポーツ委員会編：1996）とあって良いであろう。

3) 主要な障害者スポーツ大会と競技種目

障害者が行っているスポーツは多種多彩である。パラリンピックにおいて実施されている障害者スポーツ種目、国内の全国障害者スポーツ大会での種目、その他の種目、と各種の種目がある。日本障害者スポーツ協会では、全国障害者スポーツ大会実施競技と、トレーニング実技、軽スポーツ（レクリエーションを含む）に分けて、各種スポーツについて詳細に説明している（日本障害者スポーツ協会編：2004）。リハビリテーションから始まった障害者のスポーツが、国内的にも、国際的にも障害者の社会進出に相まって競技スポーツへと進化し、レクリエーションとしても親しまれるようになってきている。第4回全国障害者スポーツ大会埼玉県実行委員

表 - 1 障害者スポーツの歴史

年	日本・埼玉の障害者スポーツ	世界の障害者スポーツ
		リハビリテーション（治療・訓練）としてのスポーツが始まる
1942		国際ろう者スポーツ委員会設立（聴覚障害者）
1948		ストーク・マンデビルゲーム開催（病院内の競技大会）
1951	東京都で身体障害者のスポーツ大会開催	
1952	第1回埼玉県身体障害者スポーツ大会開催（2001年まで）	国際ストーク・マンデビル競技連盟設立（現、国際ストーク・マンデビル車椅子競技連盟） 国際ストーク・マンデビル競技大会開催（オランダから選手参加）
1960		第1回パラリンピック（ローマ、国際ストーク・マンデビル競技大会、脊髄損傷、ポリオ等の車椅子使用者のみ）
1962	国際ストークマンデビル大会に日本選手団初参加	

1963	日本ろうあ体育協会（日本ろう者スポーツ協会） 設立 厚生省社会局通知「身体障害者スポーツの振興について」	国際身体障害者スポーツ組織設立（ISOD）
1964	第2回パラリンピック開催（東京都，パラリンピックの名称初めて使用） パラリンピック終了後，第2部として国内スポーツ大会開催	
1965	第1回全国身体障害者スポーツ大会開催（岐阜県） 日本身体障害者スポーツ協会設立	
1966	身体障害者スポーツ指導員養成開始	
1967	第3回全国身体障害者スポーツ大会開催（埼玉県）	
1971	日本車椅子バスケットボール選手権大会開催	
1975	第1回極東・南太平洋障害者スポーツ大会開催（フェスピック）（大分県）	
1976		第5回トロントパラリンピック大会（視覚障害者が参加） 第1回冬季パラリンピック大会（スウェーデン）
1981	第1回スペシャルオリンピック全国大会（神奈川県／藤沢市）	
1982	第1回埼玉県知的障害者スポーツ大会開催	
1985	日本身体障害者スポーツ協会公認身体障害者スポーツ指導員制度設立	
1986	第1回大分国際車椅子マラソン大会開催（国際障害者年記念事業）	
1988		第8回パラリンピック（ソウル，参加標準記録を採用，パラリンピック＝もう一つのオリンピック）
1989		国際パラリンピック委員会設立（IPC）
1991	ジャパンパラリンピックの開催（東京都／陸上競技・水泳） 日本身体障害者陸上競技選手権大会（大阪府）	
1992	厚生省児童家庭局長通知「全国知的障害者スポーツ大会について」 第1回全国精神薄弱者スポーツ大会（ゆうあいピック）開催（東京都）	
1996		第10回アトランタパラリンピック大会開催（知的障害者が参加）
1998	第7回冬季パラリンピック大会開催（長野県，知的障害者初参加） 厚生省「障害者スポーツに関する懇談会報告」 厚生省通知「全国障害者スポーツ大会について」 埼玉県第1回ゆうあい駅伝大会開催	
1999	日本障害者スポーツ協会と名称変更（身体と知的を統合） 日本パラリンピック委員会設立（JPC） 埼玉県第1回ゆうあいナイター陸上大会開催	

障害者スポーツ大会開催の状況（山口）

	埼玉県第1回ゆうあいサッカー大会開催 埼玉県第1回ビノキオカップ（バスケットボール） 大会開催	
2000	日本知的障害者スポーツ連盟設立 日本障害者スポーツ協会が日本体育協会に加盟	第11回シドニーパラリンピック大会開催
2001	埼玉県第1回知的障害者ソフトボール大会開催 第1回全国障害者スポーツ大会開催（宮城県，身 体と知的を統合）	
2002	第1回彩の国ふれあいピック開催（精神障害者の 初参加，荒天により室内競技のみ）	第8回ソルトレイクシティ冬季パラリンピッ ク開催
2004	第4回全国障害者スポーツ大会（彩の国まごころ 大会）の開催（埼玉県）	第12回アテネ夏季パラリンピック開催

第4回全国障害者スポーツ大会埼玉県実行委員会（2004a）をもとに加筆作成

会（2004a）から，国内と世界の障害者スポーツの歴史をまとめたものを表 - 1 に掲げる。

(1) パラリンピック

パラリンピックとは，国際パラリンピック委員会（IPC）が主催する障害者による世界最高峰の競技大会で，1960年にイタリアのローマで開催された国際ストーク・マンデビル競技大会を第1回大会とするもので，1976年以降は夏季大会と冬季大会とが開催されている。夏季パラリンピックは2004年のギリシャのアテネ大会で12回を数え，2008年の第13回大会が中国の北京で開かれることが決まっている。一方，冬季パラリンピックは，1976年にスウェーデンのエーンシェルドスピークで開催された大会を第1回とし，2002年のアメリカのソルトレーク大会で

表 - 2 夏季パラリンピックの開催状況

回	年	開催都市	開催国	参加 国数	参加 人数	日本 選手数	日本の成績			
							金	銀	銅	計
1	1960	ローマ	イタリア	23	400	0	-	-	-	-
2	64	東京	日本	22	390	53	1	5	4	10
3	68	テルアビブ	イスラエル	29	750	37	2	2	9	13
4	72	ハイデルベルグ	ドイツ	44	1,000	25	4	5	3	12
5	76	トロント	カナダ	42	1,600	37	11	9	5	25
6	80	アーヘン	オランダ	42	2,500	37	9	11	7	27
7	84	ニューヨーク/ ストークマンデビル	アメリカ/イギリス	42	4,080	52	9	7	8	24
8	88	ソウル	韓国	61	4,220	141	16	12	17	45
9	92	バルセロナ	スペイン	83	4,200	75	7	8	15	30
10	96	アトランタ	アメリカ	103	3,196	81	14	10	13	37
11	2000	シドニー	オーストラリア	123	3,843	151	13	17	11	41
12	04	アテネ	ギリシャ	136	3,837	163	17	15	20	52

第7回大会は，車いす以外の競技をアメリカで，車いす競技をイギリスで実施している。

2008年の第13回大会は，中国の北京で開催することが決定している。

International Paralympic Committee・日本障害者スポーツ協会各ホームページ
および日本障害者スポーツ指導者協議会（2004）による

表 - 3 冬季パラリンピックの開催状況

回	年	開催都市	開催国	参加 国数	参加 人数	日本 選手数	日本の成績			
							金	銀	銅	計
1	1976	エーンシェルドスピーク	スウェーデン	14	250	1	0	0	0	0
2	80	ヤイロ	ノルウェー	18	350	6	0	0	0	0
3	84	インスブルック	オーストリア	22	350	12	0	0	0	0
4	88	インスブルック	オーストリア	22	397	16	0	0	2	2
5	92	アルペールビル	フランス	24	475	15	0	0	2	2
6	94	リレハンメル	ノルウェー	31	1,000	27	0	3	3	6
7	98	長野	日本	32	571	69	12	16	13	41
8	2002	ソルトレーク・シティ	アメリカ	36	416	37	0	0	3	3

第1回大会参加の日本選手は、個人参加（自費）である。

2006年の第9回大会はイタリアのトリノで、2010年の第10回大会はカナダのバンクーバーで開催することが決定している。

表 - 2 に同じ

8回を数え、2006年にはイタリアのトリノで、2010年にはカナダのバンクーバーで開催することが決定している。この間、第8回夏季パラリンピックとなる1988年のソウル大会からは、パラリンピック [= パラ (もう一つの, Parallel) + オリンピック (Olympic)] という大会名が公式に使用されるようになった。今までに開かれたパラリンピックの開催年・開催地等についてまとめたものは、夏季パラリンピックのそれを表 - 2 に、冬季パラリンピックのそれを表 - 3 に示す。

日本選手団の参加は、第2回夏季大会の東京大会からで、53人の選手と31人の選手団役員を送っている。この東京大会は、日本における障害者のスポーツへの参加を顕著にさせた大会で、翌年から毎年開かれている日本身体障害者スポーツ大会が、開催されるきっかけをつくったものである。夏季大会における日本選手の活躍は、表 - 2 に示されるとおりであるが、昨年（第12回アテネ大会）での活躍にはめざましいものが見られた。アテネ大会への日本選手の参加者数も今迄でもっとも多かったが、メダルの獲得数でも最多であった。アテネ大会の特徴としては、予想を上回る80万枚以上のチケットの販売、大勢の報道関係者のアテネ入り、642件のドーピング検査、448のパラリンピック大会記録と304の世界記録、日本の成田真由美選手の獲得最多メダル数（7個の金メダルと1個の銅メダル）、参加選手中で最高齢者は67歳、最年少者は14歳、パラリンピックとオリンピックとの双方でメダル獲得者の出現、であった（日本障害者スポーツ指導者協議会：2004）。なお、第11回のシドニー大会では、立正大学文学部卒業の三上真二氏（大阪市長居障害者スポーツセンター、日本障害者スポーツ協会技術委員会委員）がヘッドコーチ（監督）として指揮した車椅子バスケットボール女子チームが、第7回大会（1984年）以来の悲願の銅メダルを獲得している。このシドニー大会での車椅子バスケットボールチームの総監督は、本研究でも文献として使用させていただいている『障害者とスポーツ』の著者である高橋明氏であった。一方、冬季大会での日本選手の参加は、第2回大会以降（第1回は個人参加）で、1998年に開かれた第7回になる長野大会は、参加人数も最大で、メダルの取得も最大であった（表 - 3）。

障害者スポーツ大会開催の状況（山口）

これらパラリンピックにて実施されている競技種目としては、夏季大会では21種目、冬季大会では4種目がある（International Paralympic Committee ホームページ）。これらのうち夏季大会で実施されている種目は、1960年の第1回大会からのものがアーチェリー、陸上競技、水泳、卓球、車椅子バスケットボール、車いすフェンシング、1964年第2回大会以降がパワーリフティング、1976年第5回大会以降がゴールボール、射撃、1980年第6回大会以降がシッティングバレーボール、1984年第7回大会以降がボッチャ、脳性麻痺者7人制サッカー、1988年第8回大会以降が自転車、柔道、1992年第9回大会以降が車いすテニス、1996年第10回大会以降が馬術で、2000年の第11回大会以降がセーリング、ウィルチェアラグビーで、2004年の第12回大会で視覚障害者5人制サッカーが採用されている。また、ローンボウルズと車いすダンスもパラリンピックの種目とされているが、未だ実施されてはいない。一方、冬季大会の種目としては、1976年の第1回のエーンシェルドスピーク大会以降のものとしてはアルペンスキーとノルディックスキー（クロスカントリーは第1回からパイアスロンは第6回から実施）で、1994年の第6回大会からアイスレジャホッケーが採用され、2006年に開催予定のトリノ大会で車いすカーリングが登場する予定である。これらの種目は、毎回のパラリンピックにて必ず開催されてきたものでなく、回数を重ねるにつけて新たに加わってきたものである。当初のパラリンピック大会は、脊髄損傷者による車いす使用者だけで行われていた国際ストック・マンデビル大会であったが、第5回のトロント大会では、視覚障害者と切断の選手が出場するようになった（表-1参照）。なお、第2回東京大会は2部制で開催され、第1部は国際ストック・マンデビル大会として、第2部は車いす以外の身体障害者と西ドイツの招待選手による国内大会として開催されている。とくにトロント大会以降その他の身体障害者、聴覚障害者、知的障害者へと出場枠が広がってきた。この拡がりに応じて競技種目も拡大している。

(2) 国内における障害者のスポーツ大会

1965年以降行われてきた身体障害者による全国身体障害者スポーツ大会と、1992年からの知的障害者による全国知的障害者スポーツ大会（ゆうあいピック）とが統合されたものが全国障害者スポーツ大会で、国内最大の障害者スポーツの祭典である。この大会は2001年の宮城県での大会を第1回大会とし、第2回が高知県、第3回が静岡県で開催され、2004年の埼玉県大会は第4回となる大会であった。

全国身体障害者スポーツ大会

全国身体障害者スポーツ大会は、1964年東京オリンピックの後に開催された東京パラリンピック（国際身体障害者スポーツ大会）を契機に、その翌年1965年に国民体育大会が開催された岐阜県で開催された大会を第1回とし、2000年の富山県大会を第36回とするスポーツ大会である。この全国身体障害者スポーツ大会については、1988年2月に厚生省社会局長通知（社更第27号）

表・4 全国身体障害者スポーツ大会の経緯

回数	年月日	開催地	開催県	開催市	開催地	選手	役員	愛称	スロガー
1	1965.11.6～7	岐阜	岐阜県	岐阜市	岐阜市・大垣市	523	461		(明るく強く 強く明るくたくましく やればできる 忍耐と努力に栄光を 自助の祭典 あすを築く自立の祭典 希望にみちてたくましく がんばるぞ熱と力と根性で くげなるな 強く胸はつて 友愛と希望で結ぶ集いの輪 友愛の輪から 希望の輪 がんばって ほげましまあつて わ希望 ひろげよう 愛の輪 夢の輪 力の輪 ざわやかに あたたく ひたむきに ふれあう心 あふれる力 のゆめ 郷土 やります できます このからだ わたしたちにも がんばりが 生かされが 手をつなぎ 心をつないで わゆ 飛び出そう 今 ひかりの中に この力 伸ばそう 生かそう たましく はばたこう 夢と希望の輪をひろげ やまなみに ひびけ とどろけ このちから 翔べフェニックス 紺碧の空に さわやかな汗よ 笑顔よ 友情よ 君がうて 希望の鐘を エルムのまちに ふいふい ちからの限り 飛び立とう ほほえみに 広がる友情 わゆ 思いつきのひやかに さわやかに 今、飛び立とう 友と心の手をつなぎ あなただけが タッチ 心のバト つなく手に あふれる感動 わゆ げんき かがやけ！ ときめいて今 はばたいて未来 あなただけの手 あなただけの手 がんばるが、いっぱい 自分にチャレンジ! あしたにチャレンジ!!
2	66.11.5～6	大分	大分県	大分市	大分市・別府市	541	586		
3	67.11.4～5	上尾	埼玉県	上尾市	川口市	592	630		
4	68.10.12～13	福長	福岡県	福岡市	福岡市・小浜市	594	679		
5	69.11.8～9	長崎	長崎県	長崎市	長崎市	596	643		
6	70.10.24～25	岩手	岩手県	盛岡市	盛岡市	590	621		
7	71.11.6～7	和歌山	和歌山県	和歌山市	和歌山市・下津市	601	508		
8	72.11.11～12	鹿島	千葉県	鹿島市	鹿島市	717	628		
9	73.10.27～28	千葉	千葉県	千葉市	千葉市	840	1,067	若潮大会	
10	74.11.2～3	茨城	茨城県	水戸市	勝田市・那珂町・東海村	830	1,281	まごころ大会	
11	75.11.8～9	茨城	茨城県	水戸市	伊勢市	853	1,289		
12	76.11.6～7	佐賀	佐賀県	佐賀市	佐賀市	838	893	若楠大会	
13	77.10.15～16	青森	青森県	青森市	青森市	861	595		
14	78.10.28～29	青森	青森県	青森市	松本市	869	1,021	やまびこ大会	
15	79.10.27～28	宮崎	宮崎県	宮崎市	宮崎市	902	631		
16	80.10.25～26	栃木	栃木県	宇都宮市	宇都宮市	908	805		
17	81.10.24～25	滋賀	滋賀県	大津市	大津市	940	722	ひびこ大会	
18	82.10.16～17	群馬	群馬県	前橋市	前橋市	1,039	769	ふれあい大会	
19	83.10.29～30	群馬	群馬県	前橋市	前橋市	1,101	791	愛のあかぎ大会	
20	84.10.27～28	群馬	群馬県	前橋市	前橋市	1,113	813	わかたけ大会	
21	85.11.2～3	群馬	群馬県	前橋市	前橋市	1,123	786	わかたけ大会	
22	86.10.25～26	山梨	山梨県	甲府市	甲府市	1,117	829	ふれあいのかいし大会	
23	87.11.14～15	沖縄	沖縄県	沖縄市	沖縄市	1,161	796	かいし大会	
24	88.10.29～30	京都	京都府	京都市	京都市	1,228	862	愛とふれあいの京都大会	
25	89.9.30～10.1	北海道	北海道	札幌市	札幌市	1,266	942	希望と友愛のはまなす大会	
26	90.11.3～4	福岡	福岡県	福岡市	福岡市	1,393	988	ときめきのとびつめ大会	
27	91.10.26～27	石川	石川県	金沢市	金沢市	1,242	990	ほほえみの石川大会	
28	92.10.18～19	山形	山形県	天童市	天童市	1,244	971	輝きのべにばな大会	
29	93.11.5～6	徳島	徳島県	徳島市	徳島市・鳴門市・上坂町	1,265	1,018	躍動のうずしお大会	
30	94.11.12～13	愛知	愛知県	名古屋	名古屋	1,325	1,091	ゆめと希望の15	
31	95.10.28～29	愛知	愛知県	名古屋	名古屋	1,277	1,026	つりくまふくしま大会	
32	96.10.26～27	広島	広島県	広島市	広島市	1,290	1,045	うりつる大会ひろしま	
33	97.11.2～3	大阪	大阪府	大阪市	大阪市・門真市	1,351	1,072	ふれあい愛びく大阪	
34	98.11.7～8	神奈川	神奈川県	横浜	横浜市・川崎市	1,384	1,058	かながわ・ゆめ大会	
35	99.11.6～7	熊本	熊本県	熊本市	熊本市・菊陽町・合志町	1,263	992	ハートフル ぼも大会	
36	2000.10.28～29	富山	富山県	富山市	富山市	1,259	998	さらけびく富山	

選手・役員は、各都道府県の人教合計で、大会実行委員会役員等を含まない。

厚生労働省ホームページおよび第35回全国身体障害者スポーツ大会熊本県実行委員会(1999)・2000年国体富山県実行委員会(2001)による

障害者スポーツ大会開催の状況（山口）

「全国身体障害者スポーツ大会について」が出され、大会の目的を「大会の開催は、全国の身体障害者がこの大会に参加し、スポーツを通じて体力の維持、増強、残存能力の向上及び心理的・社会的更正の効果を図るとともに、国民の身体障害者に対する理解の増進と関心の高揚を図り、もって身体障害者の自立と社会参加の促進に寄与することを目的とする」と謳っている。この通知には、大会の目的以外に、大会の主催者、大会の開催（開催地・開催期日・施設）、参加選手団、大会の実施細目、大会の準備と参加、が謳われている。

全国身体障害者スポーツ大会が開催される以前には、1950年に東京都で開催された身体障害者の運動会が身体障害者のスポーツを全国に広めるきっかけとなり、1961年の第1回大分県身体障害者体育大会では、組織化された競技会として注目されるようになった（日本リハビリテーション医学会スポーツ委員会編：1996）。

以上の経過で実施された全国身体障害者スポーツ大会は、1965年に岐阜県で開催された第1回大会以来、全国障害者スポーツ大会に統合される前の2000年に開催された富山県大会で36回を数えた。この間の全国身体障害者スポーツ大会の歴史は、表 - 4 に示すとおりである。大会への各都道府県・指定都市からの参加選手総数は、約1,300名前後を数えている（厚生労働省ホームページ、第35回全国身体障害者スポーツ大会熊本県実行委員会：1999、2000年国体富山県実行委員会：2001）。

全国身体障害者スポーツ大会としての最後の大会であった富山大会（2000年国体富山県実行委員会：2001）で開催された種目は、大別して個人競技と団体競技とに区分される。このうち、個人競技には、陸上競技、水泳、アーチェリー、卓球が採用されていた。陸上競技はトラック競技とフィールド競技に分かれ、前者には60m、100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、障害急歩、スラロームⅠ、スラロームⅡの各競争があり、後者には跳躍（走高跳、立幅跳、走幅跳、立三段跳、三段跳）と投てき（砲丸投、ハンドボール投、こん棒投、ソフトボール投、ピンバグ投、やり投げ）が、水泳には自由形（25m、50m、100m）、背泳ぎ（25m、50m）、平泳ぎ（25m、50m、100m）、パタフライ（25m、50m、100m）、個人メドレー（100m）があり、アーチェリーには、50m・30mラウンドと30mダブルラウンドとが、卓球には一般卓球と盲人卓球が採用されていた。一方、団体競技には車椅子バスケットボールと、グランドソフトボール、バレーボールが採用されていた。

全国的障害者スポーツ大会

一方、全国的障害者スポーツ大会は、「国連・障害者の十年」の最終年にあたる1992年に第1回大会が東京都で全国精神薄弱者スポーツ大会として開催され、2000年には岐阜県にて第9回大会が開催されたものである（表 - 5）。当該スポーツ大会については、1992年5月に厚生省児童家庭局長通知（児発第488号）「全国的障害者スポーツ大会について」が出され、この中で、大会の目的を「知的障害者のスポーツの一層の発展を図るとともに、社会の知的障害者に対する理解と認識を深め、知的障害者の自立と社会参加の促進に寄与することを目的とす

表 - 5 全国知的障害者スポーツ大会の経緯

回数	年月日	開催地	選手	役員	スローガン	備考
1	1992.11.21～22	東京都	1,736	1,123	手つなぎ、この感動を分かちあおう	
2	93.10.16～17	熊本県	2,103	1,298	であい 友愛 わかちあい	フットベース追加
3	94.10.15～16	群馬県	2,268	1,423	いま 君がすばらしい	
4	95	兵庫県				(阪神・淡路大震災により中止)
5	96.9.21～22	北海道	2,646	1,626	友 いま集い 愛 いまあふれ	公開競技(相撲)実施
6	97.10.18～19	愛知県	2,868	1,669	力いっぱい、愛いっぱい	
7	98.10.17～18	茨城県	2,581	1,587	いい友 いい愛 いい心	公開競技(フリースタイル)実施
8	99.10.2～3	島根県	2,601	1,525	光る汗 光る笑顔に 光る愛	
9	2000.10.21～22	岐阜県	2,722	1,591	今 きみがいちばん光っている	

選手・役員は、各都道府県の人数合計で、大会実行委員会役員等を含まない。

日本知的障害福祉連盟(1994)および、ゆうあいピック愛知・名古屋大会実行委員会(1998)、同茨城大会実行委員会(1999)、同しまね大会実行委員会(2000)、同岐阜大会実行委員会(2001)による

る」と謳っており、大会の目的以外に、大会の主催者、参加選手団、大会の実施細目、大会の準備と参加、が謳われている。

この全国知的障害者スポーツ大会で実施された競技種目は、第9回岐阜県大会で実施された種目をみると、陸上(50m, 100m, 200m, 400m, 800m, 1500m, 4×100mリレー、立幅跳、走幅跳、走高跳、ソフトボール投げ)と、水泳(25m自由形, 50m自由形, 100m自由形, 25m平泳ぎ, 50m平泳ぎ, 25m背泳ぎ, 50m背泳ぎ, 25mバタフライ, 50mバタフライ, 200mリレー)、フライングディスク(アキュラシー、ディスタンス)、ボウリング、卓球、サッカー、バスケットボール、ソフトボール、フットベースボール、バレーボールであった(ゆうあいピック岐阜大会実行委員会:2001)。

全国障害者スポーツ大会

これらの大会の開催とともに、文部省の保健体育審議会において「生涯にわたる心身の健康の保持増進のための今後の健康に関する教育及びスポーツの振興のあり方について」が、1997年9月に答申され、答申の各所で障害者とスポーツの関係を述べ、とくに「Ⅱ スポーツと生涯にわたるスポーツライフの実現 5 障害のある人とスポーツ」の項で、障害者のスポーツに論述している。一方、厚生省においても“障害者スポーツに関する懇談会”が1998年に発足し、計3回の審議を経て「障害者スポーツに関する懇談会報告」を同年6月に提出した。この報告の中で、「これまで障害者スポーツは、(1)リハビリテーション(機能回復訓練)の手段として、(2)健康増進や社会参加意欲を助長するものとして、(3)障害や障害者に対する国民の理解を促進するものとして、その普及が図られ、大きな効果を上げてきた」と述べ、今後の障害者スポーツの推進方策を掲げ、その中で、「現在別々に開催されている全国身体障害者スポーツ大会とゆうあいピック(全国精神薄弱者スポーツ大会)について、21世紀初頭を目的に、競技性も加味しつつ統合実施を行うべきである」と報告している。

これらの経過を受けて全国障害者スポーツ大会は、今までの身体障害者の大会と知的障害者

障害者スポーツ大会開催の状況（山口）

表 - 6 全国障害者スポーツ大会の経緯

回数	年 月 日	開 催 県		選手 役員	愛 称 (マスコット) ス ロ ー ガ ン
		開 催 地			
1	2001.10.27～29	宮城県・仙台市		3,195	翔く・新世紀みやぎ大会（ケヤッキー）
		仙台市・利府町		1,747	感動体感2001
2	02.11.9～11	高知県		3,199	よさこいピック高知（くろしおくん）
		高知市・南国市・土佐市・伊野町・春野町		1,935	見つけて夢！活かして力！
3	03.11.8～10	静岡県		3,289	わかふじ大会（ふじっぴー）
		静岡市・浜松市・磐田市・掛川市・袋井市・浜北市		2,089	静岡で かなえよう夢 つたえよう感動
4	04.11.13～15	埼玉県・さいたま市		3,089	彩の国まごころ大会（コバトン）
		さいたま市・熊谷市・川口市・行田市・東松山市・深谷市・桶川市・妻沼町		1,995	ともに感動！ともに笑顔
5	05.11.5～7	岡山県			あなたがきらり（ももっち）
		岡山市・倉敷市・総社市			輝いて！おかやま大会
6	06.10.14～16	兵庫県・神戸市			のじぎく兵庫大会（はばタン）
		神戸市・尼崎市・三木市・津名町			はばたこう ともに今から ひょうごから
7	07.10.13～15	秋田県			秋田わか杉大会（スギッチ） きっと出会える！夢と感動

選手および役員は、各都道府県・指定都市選手団の人数（公開競技の選手団を除く）。

第7回大会以降は、国体開催地として、大分県、新潟県、千葉県・千葉市、山口県、岐阜県、東京都、長崎県、愛媛県が予定されている。

第1回全国障害者スポーツ大会実行委員会（2002b）・第2回全国障害者スポーツ大会高知県実行委員会（2003）・第3回全国障害者スポーツ大会実行委員会（2004）・第4回全国障害者スポーツ大会埼玉県実行委員会（2005）および岡山県・兵庫県・秋田県ホームページによる

のそれとが統合されたものである。2001年に統合された大会として第1回全国障害者スポーツ大会が宮城県で開催された。その後の大会の経緯は表-6に示すとおりである。宮城県大会は、10月27日から29日にかけて仙台市および利府町で開かれ、全国から3,195名の選手と選手団役員1,747名とが集まり、「翔く・新世紀みやぎ大会」として開催された。その翌年2002年には高知県にて、2003年には静岡県にて開かれ、昨年の2004年には埼玉県にて第4回大会が熊谷市を主会場として開催された。第4回埼玉県大会は、「彩の国まごころ大会」の愛称で、熊谷市ほか6市1町で開かれ、全国から3,089名の選手と選手団役員1,995名が集まり開催された。立正大学社会福祉学部からも466名の学生がまごころパートナー（318名）や手書き要約筆記（148名）ボランティアとして大会に参加した（立正大学社会福祉学部：2005）。今後の大会開催地としては、2005年には岡山県大会が、2006年には兵庫県大会が、2007年には秋田県大会が予定されている。

これらの大会では、全国障害者スポーツ大会のシンボルマークの他に、それぞれの開催県の特性に応じた、大会の愛称、スローガン、マスコットを決め、大会を運営している。シンボルマークは、21世紀の「21」をモチーフにし、障害者の走る、飛ぶ、泳ぐをデザインしたもので、4色のカラーで北海道・本州・四国・九州を表したものである。このシンボルマークは毎年使われるのに対し、大会の愛称、スローガン、マスコットは、各開催県独自のものである。

この全国障害者スポーツ大会は、「障害のある選手が障害者スポーツのこの大会に参加し、

競技等を通じてスポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障害に対する理解を深め、障害者の社会参加の促進に寄与することを目的」としている（第1回全国障害者スポーツ大会実行委員会：2002a）。この目的は、第1回大会開催後に告示された「全国障害者スポーツ大会開催規程」（2001年12月18日 厚生労働省告示第385号）第1条（目的）にも「全国障害者スポーツ大会は、障害者の自立と社会経済活動への参加を促進することを目的とする」と謳われている。この規程には、目的の以外に、開催者、参加者及び競技内容、開催地、開催期日、会場、が謳われている。また、開催規程以前の1998年7月に出示された「全国障害者スポーツ大会について」（障第420号、厚生省通知）で、大会の目的、大会の主催者、大会の開催（開催地、開催期日、施設）、参加選手団、大会の実施細目、大会の準備と参加、大会運営上の留意点、が示され、これに則して毎年の大会が運営されている（日本知的障害福祉連盟：1999）。この通知の位置付けとして、全国障害者スポーツ大会を毎年、すなわち秋季国民体育大会の開催都道府県とし、秋季国民体育大会の直後、同じ施設を使用することを原則としている点にある。

全国障害者スポーツ大会で行われる競技種目は、個人競技と団体競技に分けられる。それぞれ多くの種目があり、陸上と水泳は障害の細かな区分、年齢区分によって細かく分かれている。第4回埼玉県大会で実施された競技種目を第4回全国障害者スポーツ大会埼玉県実行委員会プログラム（第4回全国障害者スポーツ大会埼玉県実行委員会：2004b・c・d・e・f）でみると、個人競技には 陸上競技と、水泳、アーチェリー、卓球、ボウリング、フライングデスクがあり、団体競技には 車椅子バスケットボールと、バスケットボール、グランドソフトボール、ソフトボール、フットベースボール、バレーボール、サッカーがある。これらのうち、陸上、水泳、アーチェリー、卓球、フライングデスクでは、障害による区分ごとに実施されている。種目によっては、障害区分のほか、年齢区分や男女別に実施するものもある。

個人競技である 陸上競技は、競争競技（50m, 60m, 100m, 200m, 400m, 800m, 1500m, 5000m, 障害急歩, スラロームⅠ, スラロームⅡ, 4×100mリレー）と跳躍競技（走高跳, 立幅跳, 走幅跳, 立三段跳, 三段跳）、投てき競技（砲丸投, ハンドボール投, こん棒投, ソフトボール投, ビーンバッグ投, やり投げ）が男女別に実施されている。これらのうち、5000m競争と立三段跳・三段跳とが男子のみである。の水泳には自由形（25m, 50m, 100m）、背泳ぎ（25m, 50m, 100m）、平泳ぎ（25m, 50m, 100m）、バタフライ（25m, 50m, 100m）、個人メドレー（75m, 100m）、200mリレー、200mメドレーリレーがあり、男女別、障害区分別、年齢区分別に実施されている。のアーチェリーは肢体不自由者と聴覚障害者、の卓球は肢体不自由者と視覚障害者・聴覚障害者・知的障害者、のボウリングは知的障害者のみの競技、のフライングデスクは肢体不自由者と視覚障害者・聴覚障害者・知的障害者の競技である。

団体競技のうち、の車椅子バスケットボールは肢体不自由者の車椅子使用者の競技、のバスケットボールは知的障害者のみ、のグランドソフトボールは視覚障害者のみ、のソフ

障害者スポーツ大会開催の状況（山口）

表 - 7 全国障害者スポーツ大会参加選手数

単位：人、（ ）は埼玉県選手数

		第1回	第2回	第3回	第4回
選 手 数	合 計	3,195 (71)	3,199 (75)	3,289 (169)	3,089 (272)
	男 子	2,284 (54)	2,269 (56)	2,345 (125)	2,227 (199)
	女 子	911 (17)	930 (19)	944 (44)	862 (73)
個 人 競 技	陸 上 競 技	1,074 (28)	998 (31)	1,019 (32)	916 (62)
	水 泳	337 (10)	328 (11)	316 (12)	291 (20)
	ア - チ ェ リ -	32 (2)	38 (1)	42 (1)	46 (3)
	卓 球	273 (5)	300 (5)	272 (6)	293 (19)
	ボ ウ リ ン グ	154 (5)	179 (5)	205 (6)	172 (10)
	フ ラ イ ン グ デ ス ク	262 (9)	364 (8)	420 (10)	285 (16)
技	小 計	2,132 (59)	2,207 (61)	2,274 (67)	2,003 (130)
	男 子	1,466 (42)	1,517 (42)	1,568 (45)	1,390 (92)
	女 子	666 (17)	690 (19)	706 (22)	613 (38)
団 体 競 技	車 椅子 バ ス ケ ッ ト ボ ー ル	98 (12)	88 (-)	89 (-)	96 (12)
	バ ス ケ ッ ト ボ ー ル (男 子)	92 (-)	84 (-)	89 (12)	102 (12)
	バ ス ケ ッ ト ボ ー ル (女 子)	90 (-)	92 (-)	85 (12)	82 (12)
	グ ラ ン ド ソ フ ト ボ ー ル	134 (-)	116 (14)	117 (14)	120 (15)
	ソ フ ト ボ ー ル	117 (-)	113 (-)	113 (15)	131 (15)
	バレーボール (聴覚障害者・男子)	84 (-)	84 (-)	86 (-)	77 (12)
	バレーボール (聴覚障害者・女子)	78 (-)	80 (-)	84 (-)	91 (12)
	バレーボール (知的障害者・男子)	72 (-)	65 (-)	66 (10)	78 (12)
	バレーボール (知的障害者・女子)	67 (-)	63 (-)	60 (10)	71 (11)
	サ ッ カ ー	122 (-)	109 (-)	112 (14)	125 (14)
	フ ッ ト ベ ー ス ボ ー ル	109 (-)	98 (-)	114 (15)	113 (15)
	小 計	1,063 (12)	992 (14)	1,015 (102)	1,086 (142)
	男 子	818 (12)	752 (14)	777 (80)	837 (107)
女 子	245 (-)	240 (-)	238 (22)	249 (35)	
選 手 団 付 役 員	1,747	1,935	2,089	1,995 (120)	
精 神 障 害 者 バ レ ー ボ ー ル	-	163 (12)	156 (12)	136 (24)	
脳 性 ま ひ 7 人 制 サ ッ カ ー	-	-	-	76 (10)	

精神障害者バレーボールおよび脳性まひ7人制サッカーは、オープン競技として実施された。

表 - 6 に同じ（岡山県・兵庫県・秋田県各ホームページを除く）

トボールは知的障害者のみ、 のフットベースボールは知的障害者のみ、 のバレーボールは聴覚障害者・知的障害者、 のサッカーは知的障害者のみの競技である。これらのうち、車椅子バスケットボール、グランドソフトボール、ソフトボール、フットベースボール、サッカーは、男女混合が可能な種目である。以上の13の競技種目は第1回大会以来実施されている競技種目で、第1回大会から第4回大会までの種目別参加選手数を大会報告書等（第1回全国障害者スポーツ大会実行委員会：2002b、第2回全国障害者スポーツ大会高知県実行委員会：2003、第3回全国障害者スポーツ大会実行委員会：2004、第4回全国障害者スポーツ大会埼玉県実行委員会：2005）から競技種目別に示すと、表 - 7 のとおりである。

種目別に見ると参加選手数では、個人競技としての陸上競技に多いことが知られ、次いで卓球とフライングデスクや水泳競技が続いている。団体競技では、ソフトボールとサッカーが多

く、次いでグランドソフトボール、フットベースボール、男子バスケットボールとなっている。全種目での男子と女子の割合は、7:3であった。これらの種目以外に、精神障害者のバレーボールが第2回大会から、脳性まひ7人制サッカーが今回の第4回大会から、オープン競技として実施されている。埼玉県大会で実施されたオープン競技のうち、精神障害者のバレーボールは第4回全国精神障害者スポーツ（バレーボール）大会の競技で、脳性まひ7人制サッカーは第4回CPサッカー全日本選手権大会で、これらをオープン競技として実施したものである。

(3) その他の障害者スポーツ大会

パラリンピックや全国障害者スポーツ大会以外の障害者スポーツ大会としては、国際的な大会、日本障害者スポーツ協会（JSAD）主催の大会（日本障害者スポーツ協会ホームページ）、競技別障害者スポーツ団体主催の大会、都道府県別の大会等と様々な大会がある。

パラリンピック以外の主な国際的な大会としては、世界ろうあ者スポーツ大会（デフリンピック）、IPC世界選手権大会、IBSA（国際視覚障害者スポーツ協会）世界選手権、INAS-FID（国際知的障害者スポーツ連盟）世界選手権大会、世界車椅子バスケットボール選手権大会、フェスピック競技大会、フェスピックユース大会、ISMWSF（国際ストーク・マンデビル車いす競技連盟）世界車いす競技大会兼 ISOD（国際身体障害者スポーツ機構）世界陸上選手権大会、スペシャルオリックス（SO）、大分国際車いすマラソン大会等がある。

スペシャルオリックスは、2005年2月26日から3月5日にかけて長野県にて開催され、アルペンスキー（山ノ内町）、クロスカントリースキー（白馬村）、スノーボード（牟礼村）、スノーシューイング（野沢温泉村）、スピードスケート（長野市）、フィギュアスケート（長野市）、フロアホッケー（長野市）が実施された（2005年スペシャルオリックス冬季世界大会・長野ホームページ）。このスペシャルオリックスは夏季大会と冬季大会とがあり、前者は第1回が1968年にアメリカのシカゴで開催され、2003年のアイルランドのダブリンで11回を数え、後者は1977年アメリカのスティームボードスプリングスで第1回が開かれ、長野大会が第8回となるものである。日本選手団は1983年の第6回夏季大会以降、夏季・冬季ともに選手を派遣している（遠藤雅子：2004）。

日本障害者スポーツ協会が主催する国内での全国障害者スポーツ大会および大分国際車いすマラソン大会以外の大会としては、ジャパンパラリンピック陸上競技大会、ジャパンパラリンピック水泳競技大会、ジャパンパラリンピックアーチェリー競技大会、ジャパンパラリンピックスキー競技大会、内閣総理大臣杯争奪日本車椅子バスケットボール選手権大会、厚生労働大臣杯争奪日本車椅子ツインバスケットボール選手権大会、厚生労働大臣杯争奪全国身体障害者アーチェリー選手権大会、全日本視覚障害者柔道大会、全国車いす駅伝競争大会、国際盲人マラソンかすみがうら大会、日本障害者自転車競技大会、全国身体障害者スキー大会等がある。

日本における競技別障害者スポーツ団体には、連盟・協議会・協会等の名称で56の組織が形成されている。興味ある団体として一部を掲げると、日本障害者スポーツ射撃連盟、日本視覚

障害者スポーツ大会開催の状況（山口）

表 - 8 埼玉県障害者スポーツカレンダー（2003年度）

大会名称	期日	会場	主催
第3回全国障害者スポーツ大会 知的障害者バスケットボール関東ブロック予選会	4月19日 ～20日	駒沢オリンピック公園総合運動場 体育館屋内競技場	東京都
第3回全国障害者スポーツ大会 精神障害者ソフトバレーボール埼玉県予選会	4月25日	埼玉県障害者交流センター 体育館	埼玉県精神保健福祉協会
第3回全国障害者スポーツ大会 知的障害者フットベースボール関東ブロック予選会	4月27日	妻沼町町民運動公園	埼玉県
埼玉県障害者スポーツ競技会兼第3回全国障害者スポーツ大会 埼玉県・さいたま市代表選手選考会（アーチェリー）	5月4日	宮代はらっパーク	埼玉県・さいたま市
第3回全国障害者スポーツ大会 知的障害者バレーボール関東ブロック予選会	5月5日	横浜市、横浜ラポール	神奈川県
埼玉県障害者スポーツ競技会兼第3回全国障害者スポーツ大会 埼玉県・さいたま市代表選手選考会（陸上・フライングディスク・卓球・ボウリング）	5月11日	陸上&FD：上尾運動公園陸上競技場 / 卓球：埼玉県障害者交流センター / ボウリング：AMF フォーチュンおけがわ	埼玉県・さいたま市
埼玉県障害者スポーツ競技会兼第3回全国障害者スポーツ大会 埼玉県・さいたま市代表選手選考会（水泳）	5月18日	川口市立東スポーツセンター	埼玉県・さいたま市
第3回全国障害者スポーツ大会 知的障害者サッカー関東ブロック予選会	5月25日	神奈川県立体育センター	神奈川県
第3回全国障害者スポーツ大会 聴覚障害者バレーボール関東ブロック予選会	5月25日	栃木県宇都宮市体育館	栃木県
第3回全国障害者スポーツ大会 知的障害者ソフトボール関東ブロック予選会	5月31日	栃木県総合運動公園球技広場	栃木県
第3回全国障害者スポーツ大会 グランドソフトボール関東ブロック予選会	6月7日 ～8日	妻沼町町民運動公園	埼玉県
第3回全国障害者スポーツ大会 車椅子バスケットボール関東ブロック予選会	6月15日	石岡市総合運動公園体育館	茨城県
交流アーチェリー大会	7月20日	障害者交流センター	障害者交流センター
平成15年度彩の国ふれあいピック夏季大会（水泳）	7月21日	川口市立東スポーツセンター	埼玉県
平成15年度彩の国ふれあいピック ナイター陸上大会	8月23日	鴻巣市立陸上競技場	埼玉県
交流水泳記録会	9月28日	障害者交流センター	障害者交流センター
全国車いす駅伝大会 埼玉県代表選手選考会	10月5日	鴻巣市立陸上競技場	障害者交流センター
平成15年度彩の国ふれあいピック秋季大会（陸上・フライングディスク・精神ソフトバレーボール）	10月12日	熊谷スポーツ文化公園 陸上競技場	埼玉県
第3回全国障害者スポーツ大会	11月8日 ～10日	静岡県袋井市 エコバスタジアム・ほか	厚生労働省、日本障害者スポーツ協会、静岡県ほか
平成15年度彩の国ふれあいピック ソフトボール大会	11月23日 (30日)	深谷市仙元山公園	埼玉県
交流障害者陸上競技記録会 全国車いす駅伝大会 埼玉県代表選手選考会	11月23日	上尾運動公園陸上競技場	障害者交流センター
平成15年度彩の国ふれあいピック サッカー大会	12月14日 12月21日	さいたま市荒川総合運動公園 東松山市岩鼻運動公園	埼玉県
全国車いす駅伝競走大会 埼玉県代表選手選考会	12月14日	上尾運動公園陸上競技場	障害者交流センター
わいわいサッカーフェスティバル	1月18日 (予定)	障害者交流センター（予定）	障害者交流センター
平成15年度彩の国ふれあいピック ボウリング大会	1月25日	AMF フォーチュンおけがわ	埼玉県
交流卓球大会	2月8日	障害者交流センター	障害者交流センター
平成15年度彩の国ふれあいピック 駅伝大会	2月29日	上尾運動公園陸上競技場	埼玉県
平成15年度彩の国ふれあいピック バスケットボール大会	3月7日 3月14日	川越運動公園陸上競技場	埼玉県

埼玉県ホームページから引用

ハンディキャップテニス協会、日本視覚障害ゴルフアース協会、日本バリアフリーダイビング協会、日本車椅子ビリヤード協会等がある。障害者のスポーツを支援するために公認障害者スポーツ指導者制度（日本障害者スポーツ協会：2004）があり、2004年12月末現在での登録者数は20,515名（上級指導員：474名、中級指導員：1,595名、初級指導員：18,446名）である（日本障害者スポーツ協会ホームページ）。この公認障害者スポーツ指導者資格認定校としては、大学（31校）、短期大学（18校）、専門学校（67校）が認定されている。これらの大学・学校は初級指導員認定校であるが、前記大学のうち9校は中級指導員認定校にもなっている。

都道府県の大会では、活動の活発さによってその内容が異なるようである。ここでは埼玉県の子の間の障害者スポーツカレンダーについて触れる。2004年度のそれは埼玉県で全国障害者スポーツ大会があったため回数が少なくなっているのて、その前年2003年度についての障害者スポーツカレンダー（埼玉県ホームページ）を表-8に示す。これによると、年度の前半は秋季に開かれる全国障害者スポーツ大会への関東ブロック予選会や埼玉県予選会が多く、後半に埼玉県独自の大会が開かれていることが知られる。「彩の国ふれあいピック」や「交流大会」が開かれている。

4) 障害者スポーツを取り巻く環境

障害者の社会進出とともに、障害者がスポーツに親しむ環境は大きく変化している。スポーツ種目別の協会や連盟が形成され、各種の大会が国際的にも国内的にも開催されるようになり、全国障害者スポーツ大会も精神障害者も含めることが課題とされている。このような傾向を受けて、都道府県レベルにおいても障害者スポーツ協会が組織化され、都道府県の障害者スポーツ指導者協議会も設置されてきた。このように組織化は比較的实施されているが、障害者自身の移動やスポーツを行う場所の問題が課題として残されている。障害者が自由に、何時でも使えるスポーツセンターが少ないの現状である。また、障害者のみならず健常者も加わってスポーツが行える環境を育成することが急務であろう。

参考文献

International Paralympic Committee (国際パラリンピック委員会) ホームページ

(<http://www.paralympic.org/>)

2000年国体富山県実行委員会 (2001) : 『第36回全国身体障害者スポーツ大会報告書』128p. (写真編), 54p. (競技成績編), 76p. (報告書編)

2005年スペシャルオリンピックス 冬季世界大会・長野ホームページ (<http://www.2005sowwg.com/>)

秋田県ホームページ (<http://www.pref.akita.jp/kokutai/index2.htm>)

遠藤雅子(2004) : 『スペシャルオリンピックス』集英社, 221p.

岡山県ホームページ (<http://www.pref.okayama.jp/kokutai/shogai/index.html>)

厚生労働省ホームページ (<http://www1.mhlw.go.jp/houdou/0910/h1009-3.html>)

埼玉県ホームページ (<http://www.pref.saitama.jp/A04/B200/zenspo/H15calendar.htm>)

障害者スポーツ大会開催の状況 (山口)

- 柴田徳造 (1992) : 『障害者とスポーツ スポーツの大衆化とノーマリゼーション -』 文理閣, 218p.
スペシャルオリンピックス日本ホームページ (<http://www.son.or.jp/>)
- 第1回全国障害者スポーツ大会実行委員会 (2002a) : 『第1回全国障害者スポーツ大会報告書』 80p. (写真編), 114p. (大会報告編)
- 第1回全国障害者スポーツ大会実行委員会 (2002b) : 『第1回全国障害者スポーツ大会競技記録集』 145p.
- 第2回全国障害者スポーツ大会高知県実行委員会 (2003) : 『第2回全国障害者スポーツ大会報告書』 96p. (写真編), 134p. (競技記録集), 95p. (報告書)
- 第3回全国障害者スポーツ大会実行委員会 (2004) : 『第3回全国障害者スポーツ大会報告書』 72p. (写真編), 108p. (大会報告編), 175p. (競技記録編), 12p. (所感集), 15p. (名簿編)
- 第4回全国障害者スポーツ大会埼玉県実行委員会 (2004a) : 『第4回全国障害者スポーツ大会まごころパートナー養成講座テキスト』 86p.
- 第4回全国障害者スポーツ大会埼玉県実行委員会 (2004b) : 『第4回全国障害者スポーツ大会「彩の国まごころ大会」プログラム [陸上競技]』 274p.
- 第4回全国障害者スポーツ大会埼玉県実行委員会 (2004c) : 『第4回全国障害者スポーツ大会「彩の国まごころ大会」プログラム [水泳]』 141p.
- 第4回全国障害者スポーツ大会埼玉県実行委員会 (2004d) : 『第4回全国障害者スポーツ大会「彩の国まごころ大会」プログラム [卓球]』 141p.
- 第4回全国障害者スポーツ大会埼玉県実行委員会 (2004e) : 『第4回全国障害者スポーツ大会「彩の国まごころ大会」プログラム [アーチェリー・ボウリング・フライングディスク]』 138p.
- 第4回全国障害者スポーツ大会埼玉県実行委員会 (2004f) : 『第4回全国障害者スポーツ大会「彩の国まごころ大会」プログラム [団体競技・オープン競技]』 200p.
- 第4回全国障害者スポーツ大会埼玉県実行委員会 (2005) : 『第4回全国障害者スポーツ大会報告書』 96p. (写真編), 170p. (競技記録), 102p. (報告書)
- 第35回全国身体障害者スポーツ大会熊本県実行委員会 (1999) : 『第35回全国身体障害者スポーツ大会プログラム』 399p.
- 高橋明 (2004) : 『障害者とスポーツ』 岩波書店, 196p.
- 日本障害者スポーツ協会 (2004) : 『公認障害者スポーツ指導者制度』 26p.
- 日本障害者スポーツ協会編 (2004) : 『障害者のスポーツ 指導の手引 (第2次改訂版)』 ぎょうせい, 329p.
- 日本障害者スポーツ協会ホームページ (<http://www.jsad.or.jp/>)
- 日本障害者スポーツ指導者協議会 (2004) : 『アテネ2004パラリンピック競技大会』 JSAD SPORTS 特別号, 41p.
- 日本知的障害福祉連盟 (1994) : 『発達障害白書1995』 日本文化科学社, 283p.
- 日本知的障害福祉連盟 (1999) : 『発達障害白書2000』 日本文化科学社, 398p.
- 日本リハビリテーション医学会スポーツ委員会編 (1996) : 『障害者スポーツ』 医学書院, 197p.
- 馬場哲雄編 (1992) : 『いまこそ「みんなのスポーツ」を』 中央法規出版, 236p.
- 兵庫県ホームページ (<http://www.pref.hyogo.jp/zenspo/>)
- 増田和茂 (2005) : 『障害者スポーツから生涯スポーツ, そしてユニバーサル, アシステック通信, No.45, pp.5~8.』

- 矢部京之助・草野勝彦・中田英雄編著 (2004) : 『アダブテッド・スポーツの科学～障害者・高齢者のスポーツ実践のための理論～』市村出版, 288p.
- ゆうあいピック愛知・名古屋大会実行委員会 (1998) : 『ゆうあいピック愛知・名古屋大会報告書』335p.
- ゆうあいピック茨城大会実行委員会 (1999) : 『ゆうあいピック茨城大会報告書』307p.
- ゆうあいピック岐阜大会実行委員会 (2001) : 『ゆうあいピック岐阜大会報告書』322p.
- ゆうあいピックしまね大会実行委員会 (2000) : 『ゆうあいピックしまね大会報告書』316p.
- 立正大学社会福祉学部 (2005) : 『第4回全国障害者スポーツ大会「まごころパートナー」「手書き要約筆記」活動報告書 2004年度』406p.
- 綿祐二編著 (1997) : 『障害者におくる 僕らにスポーツ僕らもスポーツ』ベースボールマガジン社, 132p.